

南有馬

広々としたスペースに  
6万冊を超える蔵書

## 原城図書館 来館者5万人達成



▲5万人目！おめでとうございます

1月7日(日)原城図書館の来館者が5万人を達成し、記念すべき5万人目となった南有馬小学校3年のイヤオ天仁君(南有馬町乙)に、認定証と記念品、花束が贈られました。

原城図書館は昨年3月5日に開館。広々としたスペースには6万冊を超える蔵書があり、喫茶室もあることなどから、平日でも多くの来館者があり、今回のスピード達成となりました。最近では本離れが取りざたされていますが、図書館ならではのゆったりとした空間の中で、読書に浸るのもすてきな時間の使い方ではないでしょうか。

布津

無病息災を  
祈りながら

## 鬼火たき



▲早く焼けないかなあ～

1月7日(日)布津町野田地区の海岸で、新春恒例の「鬼火たき」が地元自治会主催で行われ、地域の子どもからお年寄りまで、多くのおもちを片手に参加しました。

この「鬼火たき」は、九州地方で古くから伝わる火祭り、竹を立てて門松・しめ縄・書き初めなどを焼き、その火でもちを焼いて食べて無病息災を祈る行事のことですが、全国では左義長といわれています。左義長とは、正月のしめ飾りや門松を家々から集めて燃やす小正月の行事のことで、中国では、元旦に青竹を鳴らして、鬼を追い払う風習があるらしく、それが伝わったとも言われています。

参加した地元の方は、「昔は子どもたちが燃やす薪などを集めて、自分たちでやりよったのに、最近は大人の行事になったね」と少しさびしそうに話しながらも、鬼火で焼いたもちをおいしそうに食べる子どもたちを見て、うれしそうでした。

鬼火で焼いたもちを食べると、風邪をひかないとか、頭がよくなるなんてことが？…。でも本当のご利益は、地域の伝統行事で子供からお年寄りまで、つながりができることなのかもしれませんね。

1月8日(月)成人の日、有家・西有家地区子ども会主催による「新春親子たこあげ大会」が有家総合運動公園で開催され、有馬無双凧の会(北有馬)の皆さんを講師に招き、有家・西有家地区の小学生とその保護者30名が日本古来から伝わる「凧あげ」や「こま回し」を楽しみました。

子どもたちは、なれない手つきながらも、有馬無双凧の会の皆さんの指導のもと、自分たちの手で作り上げました。その後、運動公園内では凧揚げ大会があり、自慢の凧が大空へ。何度もそれぞれの凧に改良を加えながら、誰が一番高く上がるか競いながら楽しい時間を過ごしました。

また、こま回しも初めはうまく回せませんでした。何回もチャレンジすることで、最後はみんなうまく回せるようになりました。

この日は、現代の子どもたちがあまり体験することのない、貴重な1日を過ごすことができました。



▲壮行式に笑顔で応える野原選手

市全体

がんばれ希望の星！

## 野原将志選手壮行式

1月7日(日)ありえコレジオホールで、昨年のドラフト会議で、阪神タイガースに1位指名された野原将志選手の壮行式が開催され、市民約650名が参加し、エールを送りました。

この会は、松島市長をはじめ、地元自治会、有家中学校野球部、地元ソフトボールチームが発起人となり、「野原将志選手を励ます会」として開催されました。

名門「虎」の縦じまユニフォーム姿の野原選手が壇上に登場すると、地元応援団の大きな声援が沸き起こり、会場は一気にヒートアップ。タイガーマスクの応援団もかけつけるなど、大きな期待を感じさせる盛り上がりを見せました。式では、たくさんのお花束が贈られた後、松島市長が「南島原市の希望の星です。大いなる飛躍を市民皆さんと期待しています」とあいさつしました。そのほか、明日の野原選手を目指す、地元の後輩たちが「1日も早くレギュラーになって活躍してください」、「日本一になって」など、早くも大きな期待の言葉で激励しました。

それに対し野原選手は「プロ野球の世界に入れたのは、地元の方々をはじめ、先輩や仲間、指導していただいた方々のおかげです。感謝の気持ちや初心を忘れず、日本を代表するような選手を目指します」と決意を述べました。

今月からはキャンプが始まる予定で、本格的にプロ野球選手としてスタートします。



▲「虎」の応援団参上！

南有馬

最高の踊りを披露

## 「白木野少年先踊り」が大舞台へ！

平成18年11月19日(日)、平戸文化センターで開催された「第3回長崎県子ども伝統芸能大会」に、南島原市から「白木野少年先踊り」が出演しました。

「先踊り」は、島原の乱で荒廃した田畑を農民たちの手で復興したことを祝って踊ったのが始まりだといわれています。以来、郷土の人々によって、350年あまりにわたって踊りつがれてきました。

「白木野少年先踊り」は昭和54年に始まり、難しい手や足の動きなどの練習をとおして、上級生から下級生へ伝統ある郷土芸能を伝えています。

今回の大会には、南島原市立白木野小学校(松本尚美校長)の3年生から6年生までの全児童20名が、保存会(馬場武会長)の指導を受けながら出演しました。大会当日、子どもたちは、まっすぐな心で力強く舞い、最高の踊りを披露することができました。そして、一人一人の輝く命と夢(志)をもつ子どもたちの姿が、観客に大きな感動を与えました。子どもたちのサポート隊として参加した保護者や白木野小学校職員の目にも感動の涙が光っていました。

子どもたちは、平戸大会で得た貴重な体験を生かし、「昨日よりも今日、今日よりも明日」とさらに高い志をもって、今日も日本一元気な学校をめざし、がんばっています。



▲子どもたちが浮立を披露